

名古屋市東谷山北斜面の希少植物

村松 正雄⁽¹⁾⁽²⁾

- ⁽¹⁾ 名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科生物多様性研究センター 〒467-8501 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町山の畑1
⁽²⁾ 愛知植物の会

Rarity plants on Mt. Tougokusan of Nagoya City, Aichi Prefecture, Japan.

Masao MURAMATSU⁽¹⁾⁽²⁾

- ⁽¹⁾ Research Center for Biological Diversity, Graduate School of Natural Sciences, Nagoya City University, 1 Yamanohata, Mizuho-cho, Mizuho-ku, Nagoya, Aichi 467-8501, Japan.
⁽²⁾ Aichi Shokubutsu No Kai

Correspondence:
 Masao MURAMATSU E-mail: usubasikesida@yahoo.co.jp

要旨

名古屋市と瀬戸市の境にある東谷山では、開発が進んだ名古屋市内にあって、貴重な植物が数多く見られる。筆者は、愛知県環境審議会専門調査委員として環境保全地域の東谷山の調査を2015年に行った。その後も調査を続けてきた結果、アリドオシ、オニヒカゲワラビ、コウヤコケシノブなど、名古屋レッドデータブック2015には掲載されていない希少な植物を多く見つけたので、ここにその概要を報告する。

調査の概要

名古屋市の北東端に位置する東谷山は標高193 mであり、名古屋市内で最高地点を示す。山頂を境に瀬戸市と東西に分かれているが、主要部分は愛知県の自然環境保全地域に指定されており、自然環境が良く保全されている。山頂には東谷山フルーツパーク脇から南斜面を登る散策路が整備されているが、正規の登山路は北側の林道である。もう一つ南東斜面の瀬戸市境を登る散策路があり、瀬戸市十軒町から登ってくる散策路と合流して尾張部神社（おわりべのかみのやしろ）へ登れる。

筆者は、愛知県環境審議会専門調査委員として2015年10月に、南東の散策路から山頂に登り、北斜面の谷へ降りて調査を行った。そのとき谷の中ほどから下流にかけての地域で多くの希少植物を発見した。その後、2016年に1回、2018年に3回ほど同じ場所の調査を続けてきて、さらに多くの貴重な植物を記録することができた。

これらの調査の過程で、それぞれの種が存在した証拠として写真撮影を行い、植物の生育を妨げない範囲内で可能と判断した場合には、植物体の一部を標本として採集した。本稿では、それら標本の所在を登録番号で示している。Mに続く5桁番号は村松個人の整理番号を表し、AICHは愛知みどりの会の標本庫、NBCに続く4桁番号は名古屋生物多様性センター標本庫の登録番号を表している。種の同定は、シダ植物については主に倉田・中池(2005)、海老原(2016)、海老原(2017)を、その他の維管束植物は主に大橋ら(2017)をもとに、必要に応じて個別の文献等を参照して行った。

記録した植物の概要

まず気づいたのは、オニヒカゲワラビである。これは暖地性のシダ類で三重県南部が主要な生育地であるが、愛知県内では新城市、豊橋市、豊田市、豊川市など中南

部から点々と報告されている（愛知県自然環境課，2017）。今回見つかった東谷山の自生地は愛知県の最北部に当たることになるが，葉長1 mにも達する大変成長の良い大型株が3株も見られた。さらに下流側の少し離れたところに中型の株も11株記録された。その直下には，シロヤマシダ，オオバノハチジョウシダが見られたが，この両種も暖地性のシダ類で状況は同じである。これらの発見は，地球温暖化の進行を反映したものかもしれない。以上3種とも，名古屋市では絶滅危惧種ⅠA類（CR）に指定されても不思議ではないほど大変貴重な植物である。他にもホソバオオアリドオシ，コウヤコケシノブ，イヌガンソク，セイタカシケシダ，ヒカゲワラビ，ジュウモンジシダ，シソバツツナミなど極めて貴重な多くの植物が，この北斜面の谷に記録された。

今回見つかったが，すでに名古屋レッドデータブック（RDB）2015植物編（名古屋市環境局企画部環境活動推進課 2015）に記録されていたものは，ウチワゴケ絶滅危惧Ⅱ類（VU），ホソバオオアリドオシCR，サワオトギリ準絶滅危惧（NT），ウラジロガシVU，コアジサイNT，シソバツツナミVU，タマミズキVU，マルバノホロシ絶滅危惧種ⅠB類（EN），スルガテンナンショウCR，タニギキョウVU，ムラサキニガナVUである。

今回記録されたもので，名古屋RDB 2015植物編には記録されておらず，CRまたはENに相当する可能性があるものに，オオバノハチジョウシダ，オニヒカゲワラビ，シロヤマシダ，ジュウモンジシダ，ヤマイタチシダ，コウヤコケシノブ，イヌガンソク，ヒカゲワラビ，シュウブンソウ，ヤマアジサイ，イブキシダ，ホシダ，アリドオシ，イブキシダ，オオサンショウソウ，イズセンリョウが挙げられる。ジュウモンジシダ，イブキシダ，シロヤマシダ，ヒカゲワラビは，名古屋市内の他地域で見つかっており希少偶産種として扱われていたが，ここ東谷山の産地ははっきりと自生状態なので絶滅危惧種として扱われるべき種であると考えられる。さらに，オオサンショウソウとイズセンリョウは，評価点10点以下として希少度の評価対象から外されていたが，市内他地域では見られない希少な種である。以上の各種について，それぞれの状況を説明しておく。

各種の説明

1. ウチワゴケ（コケシノブ科）

Crepidomanes minutum (Blume) K. Iwats.

東谷山北斜面の谷川の下流部と中流部の岩場に手のひらほどの小群落が見つかった。山地の林内湿度の高いところに多いものの，丘陵地の乾燥するような場所では極めて珍しい。名古屋RDB 2015植物編にはすでに絶滅危惧VUで記載されている。これは，著者が守山区中志段味で採集した標本がもとになっている。

標本；M27957(AICH), 2014.12.14.



2. コウヤコケシノブ（コケシノブ科）

Hymenophyllum barbatum (Bosch) Baker

山地性の植物で，県内山間部の岩場ではどこでも見られる普通種であるが，平野部が多い名古屋市内で見つかったということは重要である。コウヤコケシノブが生える環境がないからである。東谷山北斜面の谷川の岩場に小群落を見つけただけで，他で自生は考えにくい。

標本；M28192(AICH), 2015.10.23,

M29701(NBC5699), 2018.6.23.



3. オオバノハチジョウシダ（イノモトソウ科）

Pteris terminalis Wall. ex J. Agardh var. *terminalis*

1980年代に調査したときは，愛知県の南部豊橋市や豊川市あたりでしか見られなかった種である。しかし，最近では県内広く点々と見られるようになってきた。分布を北上させてきている種である。2015年には，葉長1 m程度の大きな株が2株あったが，2018年には消滅して見られなかった。次回の名古屋RDBに載せられる可能性があったが，その前に消えてしまった可能性が高い。



標本：M28185(AICH), 2015.10.23.

4. ホシダ (ヒメシダ科)

Thelypteris acuminata (Houtt.) C.V.Morton

東谷山の谷に2016年に
見つけたときには2m²く
らいの場所に立派な株が群
生していたが、2018年8月
にはわずか5株ほどが残っ
ているだけであった。ここ
数年で弱ってしまったのかもしれない。株数は少なくな
ったが、ソーラスも付けておりしっかりとした自生株
と考えられるので、次回名古屋RDBでは絶滅危惧種と
して記載される可能性がある。



標本：M28344(AICH), 2016.9.12,
M29777(NBC5775), 2018.8.18.

5. イブキシダ (ヒメシダ科)

Thelypteris esquirolii (H.Christ) Ching var. *glabrata*
(H.Christ) K. Iwats.

東谷山の谷川に設けられ
た一番目の砂防堤の下に2
株だけ見られた。ソーラス
も付けており立派な株なの
で自生とみなし、次回名古屋
RDBでは絶滅危惧種として記載される可能性がある。



標本：M28343(AICH), 2016.9.12,
M29704(NBC7502), 2018.6.23.

6. イヌガンソク (コウヤワラビ科)

Onoclea orientale (Hook.) Hayata

谷川に挟まれた緩やかな
斜面に8株ほどの立派な株
が自生していた。名古屋R
DB 2015植物編には記載
がなく今回新しく発見され
たもので、次回の名古屋R
DBでは絶滅危惧種として記載される可能性がある。



標本：M28194(AICH), 2015.10.23,
M29715(NBC5713), 2018.6.23.

7. セイタカシケシダ (メシダ科)

Deparia dimorphophylla (Koidz.) M.Kato

東谷山の北斜面の谷川に
初めて訪れた2015年10月
には15cmほどの小さな株
が2株ほどあったが、2016
年9月にはイノシシに引っ
掻き回され、無残にも倒れ
掛かった株を見ただけだった。2018年6月には全く跡形
もなくなっていたが、谷川を上がったところで新しく小
さな1株を見つけた。それが掲載の写真である。ソーラ
スがまだしっかりとついていないので標本にはしていない。
次回の名古屋RDBに載る可能性がある。



標本：なし

7. シロヤマシダ (メシダ科)

Diplazium hachijoense Nakai

名古屋RDB 2015植物
編では、希少偶産種として
絶滅危惧種から外されてい
たが、2015年10月に東谷
山でソーラスを付けた立派
な株を2株見つけた。今回
2018年6月に確認に行くと消失してしまっていた。



標本：M28188(AICH), 2015.10.23.

8. ヒカゲワラビ (メシダ科)

Diplazium chinense (Baker) C.Chr.

2015年10月に、2つの谷川の合流する緩やかな斜面の
疎林下にヒカゲワラビを2株見つけた。2株ともソーラ
スをしっかりと付けており、60cmほどの大きさの立派
な株であった。しかし、2018年6月に行ったときには見
られなかった。

標本：M28195(AICH), 2015.10.23.

9. オニヒカゲワラビ (メシダ科)

Diplazium nipponicum Tagawa

2015年10月に東谷山の谷川を降りて行ったときに、
堰堤の下側で1mを超す立派な株を2株見つけた。2018
年6月には、下から2番目の堰堤の下側で50cmの子株

も含めて11株を数えることができた。名古屋市内にあってはここだけのもので、極めて貴重である。

標本：M28187(AICH),
2015.10.23,
M29709(NBC5707), 2018.6.23.



10. ヤマイタチシダ (オシダ科)

Dryopteris bissetiana (Baker) C. Chr.

東谷山の北斜面の谷川の岩場を登っていた時に、目の前に小さなヤマイタチシダを見つけた。小さな株だったので一葉だけを丁寧に採集した。ところが、2018年8月には、岩場を探したが見つけることができなかった。株が弱っていて消滅してしまったのかもしれない。

標本：M28191(AICH), 2015.10.23.

11. ジュウモンジシダ (オシダ科)

Polystichum tripterum (Kunze) C. Presl

2015年10月に、北斜面の谷川の一番下の堰堤脇に、ソーラスをしっかりと付けた立派な株が1株自生していた。しかし、2018年6月と8月に丁寧に周りを探したが見つけることができなかった。

標本：M28190(AICH), 2015.10.23.

12. スルガテンナンショウ (サトイモ科)

Arisaema yamatense (Nakai) Nakai subsp. *sugimotoi* (Nakai) H. Ohashi et J. Murata

北斜面の谷川が流れ落ちて国道155号に交わるところにスルガテンナンショウを見つけたのは2004年5月のことだった。名古屋RDB 2015植物編には、少なくとも最近見ていないと書かれている。しかし、2018年6月には、谷川の中流部で1株が実を付けているのを確認した。このときは、1株だけだったので標本用に採集するのは控えた。

標本：M22113(AICH), 2004.5.1.



13. オオサンショウソウ (イラクサ科)

Pellionia radicans (Siebold et Zucc.) Wedd.

名古屋市内ではここだけに自生するが、谷川の中流部から下流部までかなりの個体数があるので、名古屋RDB 2015植物編では評価点以下として絶滅危惧種



から除外されていた。しかし、今のところ東谷山だけに自生する貴重な種であることは間違いない。

標本：M28184(AICH), 2016.9.12,

M29699(NBC5697), 2018.6.23.

14. ウラジログシ (ブナ科)

Quercus salicina Blume f. *angustata* (Nakai) H. Ohba

2018年6月に谷川を降りかけて、いくつかの落ちている枝葉がウラジログシのものだと気付いた。そこで周りを探してようやく本体を見つけた。手の届く葉を少し標本用に採集した。2株だけ確認できただけであるが、林が一面に広がっているのでもまだ何株もありそうであった。名古屋RDB 2015植物編には絶滅危惧VUとして記載されている。

標本：M29713(NBC5715), 2018.6.23.

15. サワオトギリ (オトギリソウ科)

Hypericum pseudopetiolum R. Keller

2016年9月、オオバノハチジョウシダを見つけた場所のすぐ脇で、サワオトギリの黄色い花を見つけた。名古屋RDB 2015植物編に絶滅危惧VUとして記録されている。



標本：M28347(AICH), 2016.9.12,

M29713(NBC5711), 2018.6.23.

16. イズセンリョウ (サクラソウ科)

Maesa japonica (Thunb.) Moritz et Zoll.

名古屋RDB 2015植物編では評価点10点以下という理由で、絶滅危惧種から除外されていた。東谷山の北斜

面の谷に1群落があり貴重な存在であることは間違いない。

標本：なし

17. コアジサイ (アジサイ科)

Hydrangea hirta (Thunb.) Siebold et Zucc.

東谷山の北斜面の林道脇に小群落が2か所存在した。花も少しずつ付けていた。三河山間部へ行けば群落をなしているものの、名古屋では極めて珍しい種である。名古屋 R D B 2015 植物編には、絶滅危惧 N T として記載されている。

標本：M29683(NBC5681), 2018.6.9.

18. ヤマアジサイ (アジサイ科)

Hydrangea serrata (Thunb.) Ser. var. *serrata*

東谷山の北斜面の谷の下流部の岩場で、2016年9月に花も咲かない小さな株を見つけた。証拠として小枝を標本用に採集したが、株はそのまま残り成長するのを楽しみにしていた。ところが、2018年8月に調査したときには、本種を発見できなかった。弱って消滅してしまったのかもしれない。



標本：M28342(AICH), 2016.9.12.

19. アリドオシ (アカネ科)

Damnacanthus indicus C.F.Gaertn. var. *indicus*

東谷山の北斜面の谷川中腹で、本種の棘のある丸い葉を見つけたのは2016年9月のことだった。大きい株が2株あり、その実生と思われる小さな株が9株ほど見られた。名古屋 R D B 2015 植物編には掲載されていない種である。



標本：M28352(AICH), 2016.9.12,
M29708(NBC5706), 2018.6.23.

20. ホソバオオアリドオシ (アカネ科)

Damnacanthus indicus C.F.Gaertn. var. *lancifolius* Makino

本種は以前からよく知られている植物で、名古屋 R D B 2015 植物編にも絶滅危惧 C R として記載されている。愛知県では豊川流域に見られるが、尾張部では東谷山のここだけで見られる珍しい種である。



標本：M29700(NBC5698), 2018.6.23.

21. タマミズキ (モチノキ科)

Ilex micrococca Maxim.

北斜面の谷川に、胸高囲150 cmを超す大きな株が2株見られ、秋にはきれいな赤い実をつけ、遠くからもはつきりと眺めることができた。周りにはその実生がたくさん見られた。

標本：M29775(NBC5773), 2018.8.18.



22. マルバノホロシ (ナス科)

Solanum maximowiczii Koidz.

2016年9月の調査で、谷川を一通り調べて急な斜面を登ろうとしたときに、マルバノホロシの青紫色の花を発見した。蔓性の植物であるが1株だけであった。



大変珍しい種で一部分だけを標本として採集した。2018年6月の調査では、北斜面の林道脇で大きな1株を見つけた。名古屋 R D B 2015 植物編では絶滅危惧 E N として記載されている。

標本：M28357(AICH), 2016.9.12,
M29757(NBC5755), 2018.8.18.

23. シソバツツナミ (シソ科)

Scutellaria laeteviolacea Koidz. var. *laeteviolacea*

2016年9月に北斜面の谷川を中腹まで登ったところで、小さなシソバツツナミの葉を見つけた。周りを探すと5~6株見つけることができた。



標本；M28350(AICH), 2016.9.12,
M29711(NBC5709), 2018.6.23.

24. タニギキョウ (キキョウ科)

Peracarpa carnosus (Wall.) Hook. f. et Thomson

東谷山北斜面の大きな谷の南側で、小さな谷筋の入り口に1m²ほどのまばらな群落を見つけた。2018年6月にはすでに花が咲く時期は終わっていたので、標本を採取しなかった。理由は不明だが、衰弱しているようにも見えた。



標本；なし

25. ムラサキニガナ (キク科)

Paraprenanthes sororia (Miq.) C. C. Chang ex C. Shih

2016年9月12日に北斜面の中流部で2株のムラサキニガナを見つけた。花の時期はすでに終わっていたので、花の写真を撮る機会を逃してしまったが、なごや生物多様性センターに1株の標本を入れることができた。



標本；M28345(AICH), 2016.9.12,
M29776(NBC5774), 2018.8.18.

26. シュウブンソウ (キク科)

Aster verticillatus (Reinw.) Brouillet, Semple et Y.L. Chen

北斜面の谷川一帯に、株数で30株は下らない数のシュウブンソウが見られた。株数は多いが、名古屋市ではこ

こにしか分布しないと考えられる。

標本；M28341(AICH), 2016.9.12.

謝辞

名古屋市内における植物調査あるいは本稿の執筆で様々な御便宜を賜った名古屋市環境局なごや生物多様性センター、芹沢俊介氏(愛知教育大学名誉教授)、熊澤慶伯氏(名古屋市立大学システム自然科学研究科附属生物多様性研究センター長)に御礼申し上げる。

参考文献

- 愛知県自然環境課. 2017. グリーンデータブック2017 維管束植物編. 愛知県自然環境課. 名古屋.
- 海老原淳. 2016. 日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ. 学研プラス. 東京.
- 海老原淳. 2017. 日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ. 学研プラス. 東京.
- 倉田悟, 中池敏之編. 2005. 日本のシダ植物図鑑1~8. 東京大学出版会. 東京.
- 名古屋市環境局企画部環境活動推進課. 2015. 名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックなごや2015植物編. 名古屋.
- 大橋広好, 門田裕一, 邑田仁, 米倉浩司, 木原浩. 2017. 改訂新版日本の野生植物1~5. 平凡社. 東京.